

J R 四国労組ニュース

令和2年5月8日（No.25/1）

発行責任者／大谷 清

編集責任者／武智 義治

2019年度決算

鉄道運輸収入 「過去最低の224億円」

新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受ける

本部は、4月27日に開催された経営協議会において「2019年度決算概況」について会社より説明を受けた。

【新型コロナウイルス感染症拡大防止について】

冒頭、新型コロナウイルス感染症拡大による影響について、「外出自粛に伴う旅客の急速な減少により、鉄道運輸収入は前年同期と比べ約80%減少していることから、一部列車の運休やワープ支店等の休業に加えて、駅窓口の営業時間を短縮するなどの対応を実施せざるを得ない」との説明があった。これに対し組合は、これまでの感染拡大防止に向けた取り組み状況や安全の確保を第一義とした様々な課題解決に向け意見交換を行うとともに、今後も労使で情報を共有し、経営環境及び雇用環境の維持に向けこの難局を乗り越えていくことを確認した。

（関連記事：JR四国労組ニュースNo.22～24参照）

【2019年度決算について】

引き続き決算について説明があり「2019年度は、四国における基幹的公共輸送機関としての役割を果たすべく、安全・安定輸送の確保に全力で取り組むとともに、各事業においてサービス品質の向上と収益の拡大、地域社会との積極的な連携に取り組む、1月までは前年を上回り、当初の計画どおり業績は順調に推移していた。しかしながら、2月以降は新型コロナウイルス感染症の影響により、鉄道運輸収入及びその他収入を合わせた営業収益は2期連続の減収となり、4期連続の経常赤字となったものの、特別損益などを加味した当期純利益は3期ぶりの黒字となった。2020年度においても、新型コロナウイルス感染症により会社発足以来、最大の危機的状況を迎えているが、感染症の収束が見えた段階で、地域と一体となり四国への誘客や各種増収施策を進め、新観光列車『時代の夜明けのものがたり』の運行やアンパンマン列車20周年記念キャンペーンの展開などによる旅行需要の喚起、宿泊特化型ホテルや簡易宿所などによる事業領域の拡大により、収入の確保を図っていく」との考え方が示され、その後、概況について説明があった。

【2019年度決算（個別決算）概況】

営業収益は2期連続の減収となる280億円となり、このうち鉄道運輸収入は新型コロナウイルス感染症による旅客の大幅な減少により、会社発足以来最低の224億円となった。

一方、営業費は人件費や業務費の減少により、前期比7億円減の411億円となり、営業利益は前期比2億円悪化の△131億円となった。

また、営業外損益は有価証券運用益の減少などにより、110億円となった。

JR四国労組ニュース

令和2年5月8日（No.25/2）

発行責任者／大谷 清

編集責任者／武智 義治

この結果、経常利益は前期比4億円悪化の△20億円となり、4期連続の経常赤字となった。また最終利益である当期純利益は、特別利益の災害補助金などにより5億円となり、3期ぶりの黒字決算となった。

2020年度の業績予想については、新型コロナウイルス感染症の影響が懸念され、影響額や期間の想定が困難であることから示されなかった。

これを受け組合は「安全・安定輸送の確立を最優先にこの難局を乗り切り、新型コロナウイルス感染症の収束後には、減収部分を早期に取り戻せるよう増収施策にも組合員一丸となって取り組む決意である」と表明した。

【個別決算】

比較損益計算書

(単位:億円、単位未満切捨)

科 目	2018年度 決 算 A	2019年度 決 算 B	増 減 額 B-A	前 期 比 B/A	主 な 増 減 事 由 等
営 業 収 益	291	280	△ 10	96.3	2期連続の減収
旅客運輸収入	225	224	△ 0	99.6	定期外収入(△1.2億)、定期収入(0.4億) 2期連続の減収
その他収入	65	55	△ 9	85.0	分譲マンション販売(△11.0億)、不動産賃貸収入(1.7億)
営 業 費	419	411	△ 7	98.1	
人件費	148	146	△ 2	98.4	給与(△4.8億)、賃金(3.1億)
動力費	19	19	△ 0	97.5	軽油・電力単価の減(△0.5億)
業務費	81	70	△ 10	87.0	分譲マンション原価(△7.8億)、損害保険料(△3.4億)
修繕費	87	91	3	104.0	施設・電気修繕(2.3億)、車両修繕(1.4億)
諸税	11	12	1	108.7	不動産取得税(0.8億)
減価償却費	70	71	1	101.6	車両(3.2億)、ソフトウェア(△2.8億)
営 業 利 益	△ 128	△ 131	△ 2	—	
営 業 外 損 益	112	110	△ 1	98.9	
うち経営安定基金運用収益	70	68	△ 2	95.9	有価証券運用益(△2.8億)
うち機構特別債券受取利息収益	35	35	—	100.0	
経 常 利 益	△ 16	△ 20	△ 4	—	4期連続の経常赤字
特 別 損 益	9	40	31	423.6	災害損失の減(19.7億)、災害補助金(12.3億)
うち機構からの設備投資助成金	43	50	7	116.4	
税引前当期純利益	△ 6	20	27	—	
法人税等	△ 4	14	19	—	
当期純利益	△ 2	5	7	—	3期ぶりの黒字決算

比較貸借対照表

(単位:億円、単位未満切捨)

科 目	2018年度 期 末 A	2019年度 期 末 B	増 減 額 B-A	主 な 増 減 事 由 等
流 動 資 産	313	287	△ 25	有価証券(△66.9億)、未収金(△9.1億)、現預金(48.0億)
固 定 資 産	1,229	1,264	35	事業用固定資産(24.5億)、長期貸付金(6.0億)、投資有価証券(5.0億)
経 営 安 定 基 金 資 産	2,431	2,350	△ 80	有価証券評価額の減少(△80.8億)
機 構 特 別 債 券	1,400	1,400	—	
資 産 合 計	5,373	5,302	△ 71	
流 動 負 債	370	353	△ 17	前受金(△31.7億)、短期借入金(10.3億)
固 定 負 債	630	630	0	
機 構 特 別 債 券 の 引 受 け の た め の 借 入 金	1,400	1,400	—	
負 債 合 計	2,401	2,384	△ 17	
純 資 産 合 計	2,972	2,917	△ 54	有価証券評価差額金の減少(△59.6億)、当期純利益(5.4億)
負 債 ・ 純 資 産 合 計	5,373	5,302	△ 71	

JR四国労組ニュース

令和2年5月8日（N o 2 5 / 3 終）

発行責任者／大谷 清

編集責任者／武智 義治

また、発第106号土讃線「斗賀野・吾桑間第二国見トンネルにおける車両接触」について、申し入れに対する回答があった。

【発第106号土讃線「斗賀野・吾桑間第二国見トンネルにおける車両接触」について】

- 1 今回の事象の重大性についての認識と、事象発生後の社内での情報共有等に問題は無かったのか、会社の考え方を明らかにされたい。

今回の事象については、一步間違えば列車にご乗車のお客様および乗務員に被害を与える可能性があった重大な事象として認識しています。

試運転列車乗務中の企画室社員から異音感知の連絡が高知運転所になされ、検修社員が添乗して音を確認するとともに、車両設備等の異常の有無について調査していましたが、原因が特定できませんでした。そのため、高知運転所から高知保線区に調査依頼を行い、保線区において設備を点検した結果、トンネル壁面に接触痕があることを発見したことから、改めて車両を確認したところ、同車両の車体上端角部に接触痕があることを発見したため、直ちにその日の夜間作業により、軌道整備およびトンネル断面修復による応急処置を実施しました。

事象発生後の情報共有および調査過程に問題は無かったと考えますが、異音感知の際は、よりスピード感を持って幅広く関係箇所での情報共有を行い、可能な限り速やかに原因究明および対処ができるよう更なる指導をしていきたいと考えています。

- 2 車両がトンネル内壁面と接触した原因を明らかにされたい。

トンネル建設以降に実施された、振り車両導入に伴う線形改良や長年に渡る軌道整備の施工の結果、軌道中心が曲線内方に移動するとともに軌道もこう上しトンネル壁面との余裕が小さくなっていったなか、直近のマルチ作業（3月16日の夜間）により更なる軌道の移動があったためと推定しています。

- 3 この間の検査体制はどのようなものだったのかを明らかにするとともに、再発防止と今後の対策について明らかにされたい。

建築限界の確認は、実施基準で定められた定期検査の項目には無く、土木施設を新設および改良した際に確認することとなっており、これまでの間、検査は実施されておられません。

今回の事象を受け、4月8日に「トンネル内作業時における建築限界確認の徹底について」として事務連絡を発信し、トンネル内で軌道整備作業を行う際は、建築限界について十分留意して施工することを徹底するとともに、当該トンネルに関しましては、早急に建築限界支障を解消するための修繕工事を実施する予定としております。

組合：今回の事象は、一步間違えば重大事故に繋がる恐れがあるにもかかわらず、異音の感知から接触事象の判明までに期間を要している。系統間でのさらなる情報共有を図り、スピード感を持った対応をすべきである。

会社：系統間で連携を図り、さらにスピード感を持って対応したい。

以上